

単元案の概要

テーマ

ゲストに聞こうロシアの〇〇！

目標

学習レベル 1・2

訪日するロシアの高校生に、トピック（食、学校生活、趣味など）に関する質問をロシア語で行い、協働活動を通して得られた情報を整理し、プレゼンテーションする。活動の結果を、学校 HP を通して発信し、ロシア文化と日本文化の異同に関する理解を深める。

コミュニケーション能力指標

<トピック：食>

食 1-k. 自分の好きな食べ物、嫌いな食べ物、食べられないものなど、料理名や食品名を、口頭で伝えることができる。

食 1-l. 朝食・昼食・夕食によく食べるものについて、言ったり尋ねたりできる。

食 2-h. 日本と相手の国それぞれの年中行事で何を食べるかについて写真などを見せながら、口頭で紹介し合うことができる。

食 2-j. 自分の好きな食べ方・嫌いな食べ方を伝えることができる。

<トピック：趣味と遊び>

趣 1-a. 休みの日の過ごし方について、会話できる。

趣 1-c. どんなことをするのが好きか、口頭で紹介し合うことができる。

趣 1-d. 好きな有名人の名前や職業などを、口頭でまたは書いて紹介し合うことができる。

趣 1-e. 好きなテレビドラマや映画・本・音楽などのタイトルを、リストアップできる。

学習シナリオ

<場面状況>

日本の高校のロシア語コースに、ロシアから高校生 20 名が訪問することになった。ロシア語を学ぶ生徒達は訪問に合わせ、日本の文化とロシアの文化を比較するインタビューをすることにした。

<シナリオ>

①事前作業として、3~4 人のグループで日本とロシアの文化を比較するトピックを選び（食・趣味・余暇の過ごし方など）、そのトピックに関する質問項目を準備する。その質問項目に対する日本の事情や状況について書き出した後、それらをロシア語に翻訳する。インタビュー結果がまとめられるようなワークシートを準備し、インタビューの練習を行う。

②ゲストを迎えグループごとにロシア語でインタビューを行い、ワークシートを完成させる。

③インタビューで得られた情報を基にグループごとに日露文化を共通点と相違点をまとめ、PPT を作成し、発表する。

④プロジェクトの報告、学生の感想などを学校の HP を通じて公開する。また、校内放送でインタビューの一部を紹介する。

総括的評価

プレゼンテーションで評価を行う。評価ポイントは以下の 5 点とする。

- 内容の構成とわかりやすさ
- 日露文化の共通点、相違点について必要な情報をきちんと入れて述べられていたか
- パフォーマンス：声の大きさ、話し方
- PPT が効果的に使われていたか
- 制限時間内で発表できたか

ワークシート3×3+3分析

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> ・トピックに関連する語彙がわかる(A-1)。 ・日本の事情を説明するために必要な表現がわかる(A-1)。 ・ロシアの事情を尋ねるために必要な表現がわかる(A-1)。 ・目標言語の正しい発音がわかる(A-1)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習対象文化に関するさまざまな事象について知り理解する(D-1)。 ・自文化と比較してその違いや関係性に気付く(D-2)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外から来たゲストとの交流を通して言語の重要性を理解する(G-1)。 ・他者が異なる文化を持つということが分かる(G-1)。
できる	<ul style="list-style-type: none"> ・目標言語を使って、トピックに関する質問をつくることのできる(B-1)。 ・目標言語の正しい発音で質問したり説明したりできる(B-1)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習対象文化と自文化の共通性や相違性を分析することのできる(E-1)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動の中で他者と協力し合い、目標を達成することができる(H-1)。 ・友好関係を築き、信頼関係の中で活動することができる(H-1)。 ・自分の役割に責任を持って取り組む(H-1)。 ・プレゼンテーションに必要な情報を集めることのできる(H-3)。 ・PPTを効果的に使用することのできる(H-3)。
つながる	<ul style="list-style-type: none"> ・目標言語を使ってあいさつ・自己紹介をする(C-1)。 ・ゲストにトピックに関する日本の事情を伝える(C-1)。 ・ゲストにトピックに関するロシアの事情について質問する(C-1)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる文化背景を持つ人々と積極的に関わることのできる(F-1)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの成果物と活動の記録を学校のHPを通して配信し、地域の人々とつながることのできる。
三連携	連携1：生徒の関心のあるトピックと繋がる。 連携2：生徒の既習内容と繋がる。 連携3：教室外の人(ゲスト)、情報と繋がる。他教科(社会・地理)とつながる。		

＜指示文①＞

このクラスでは、来日するロシアの高校生に対し、日本の文化事情を伝え、ロシアの事情を質問するインタビューイベントを実施します。日本の情報をまとめ、ロシアの情報と対照できるワークシートを準備します。また、ワークシートを基に結果をまとめたPPTを作成し、発表します。校内放送と学校のHPで公開し、ロシアに対する理解を深めます。

＜指示文②＞PPT作成に当たっての注意点

- ①作成するスライドには、キーワードになることばをロシア語と日本語で書いてください。
- ②それ以外の情報は日本語で整理して書いてください。
- ③得られた情報以外に補足したい場合は、自分たちで積極的に調べてください。
- ④発表時間は5分です。
- ⑤プレゼンテーションの評価は、次の5点について行います。
 - a. 内容の構成とわかりやすさ
 - b. 日露文化の共通点、相違点について必要な情報をきちんと入れて述べられていたか
 - c. パフォーマンス：声の大きさ、話し方
 - d. PPTが効果的に使われていたか
 - e. 制限時間内で発表できたか

ゲストに聞こうロシアの〇〇！ルーブリック グループ活動

評価基準	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し！ (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
内容 (わかりやすさ・構成)	「はじめ→中→まとめ」の流れがあって、聞き手に「なるほど」と思わせる。	「はじめ→中→まとめ」の流れがあり分かりやすい。	「はじめ→中→おわり」のどれかが欠けている。	内容が整理されておらず、分かりにくい。
内容（ 共通点・相違点）	ふたつの文化の比較がとても詳しくできている。	比較が分かりやすくできている。	比較ができているが、分かりにくいところがある。	比較ができていない。
スライド (情報の充実)	必要な情報が全て書かれている。	必要な情報が書かれている。	必要な情報が少し欠けている。	情報が足りない。
スライド (見やすさ)	デザインが工夫され、見ていて楽しい。	見やすい。	見づらい。	非常に見づらい。
時間配分	4:45-5:00	4:30-4:45・5:00-5:15	3:00-4:30・5:15-6:00	1分以上オーバー、または、2分以上足りない

ゲストに聞こうロシアの〇〇！ルーブリック 個人発表

評価基準	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し！ (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
パフォーマンス (話し方)	原稿を全然見ないで、聞き手に語りかけている。	ちらっと原稿を見ることはあるが、伝えようとする姿勢がある。	ほとんど原稿を読んでいる。	原稿べったり。
パフォーマンス (声の大きさ)	声の大きさが十分でメリハリがある。	後ろの席の人にもはっきり聞こえる。	後ろの人には聞こえにくい。	ほとんど聞こえない。

目標分解

個々のタスク	小目標	中目標	大目標
グループを決める。 ブレインストーミング	グループで「比較のトピック」を決める。	目標言語を使ってゲストにインタビューができるようになる。	訪日するロシアの高校生に、トピック（食、学校生活、趣味、等）に関する質問をロシア語で行い、協働活動を通して得られた情報を整理しプレゼンテーションする。活動の結果を学校HPを通して発信し、ロシア文化と日本文化の異同に関する理解を深める。
グループ内でトピックに関して知りたい事を話し合う。 ブレインストーミング	トピックについての質問項目を考える。		
グループ内で質問項目に対する日本の事情をまとめる。	日本の事情をまとめる。		
疑問文の仕方を習得する。 習慣を説明するための表現を学ぶ。	習慣を説明するための語彙や構文が使える。		
辞書などを使って翻訳などを試みる。	辞書を使えばある程度目標言語に翻訳できる。		
評価：教員チェック（質問項目の妥当性/項目数/言語チェック）【形成的評価】			
質問項目数に合わせワークシートを作る。必要に応じて写真を準備する。	インタビューをする際のワークシートを作る。		
モデルにならってあいさつと自己紹介の練習をする。 グループ内でインタビューの練習をする。	リハーサルをして実際にインタビューができる準備をする。		
実際のインタビューを行う。	あいさつ・自己紹介をする。		ゲストから必要な情報を収集しながら

	日本の事情を説明しながら、ロシア事情が尋ねる。	ら親交を深める。	
	ストラテジーを使って、コミュニケーションの不足を補う。		
評価：ワークシートの提出【形成的評価】			
ワークシートに基づいてスライドを作る。	インタビュー結果をまとめる。	インタビューを基に日露の共通点/相違点を発表できるようにする。	
インターネットで情報を検索する。図書館で調べる。	図書館・インターネットなどで情報を補う。		
グループで発表の手順を考える。	発表の流れを考え、発表分担を考える。		
グループで発表の練習をする。			
プレゼンテーションを行う。	グループでまとめたことを協力しながら聞き手に分かりやすく伝える。	グループでまとめたことをクラス全体で共有し、日露文化に対する理解を深める。	
他の発表を聞いてコメントし合う。	他の発表内容をループリックに基づいて適切に評価する。		
	発表を聞いて質問・コメントをする。		
総括的評価のための活動			【総括的評価】
両国の高校生が感想を書く	活動を振り返る。	活動報告と活動写真をHPに掲載し地域へのロシアの関心を深める。	

学習者の個人的特性に対する対応

学生 A

持病（てんかん）がある女子生徒がいます。几帳面で、何をやるにしても時間がかかります。ものにこだわりやすいです。クラスには友達がなくて、単独行動が多いです。集団行動をするのを好まないです。

グループ分けの時に、彼女の場合だけ、こちらでグループを決めました。女の子だけのグループに入ってもらいました。途中で、一人で黙っていることが多い本人にも、他のメンバーにも声をかけて、進行状態を確認していました。他のメンバーのおかげで、何と発表がまとまりました。

学生 B、C

2年生のクラスと3年生のクラスにはブラジル人の女子生徒がいます。社交的で、明るい子です。英語もロシア語も吸収力が早いです。特に「聞く」、「話す」の能力が高いです。ただし、どちらも欠席が多いため、テストの成績が特別にいいとはいえません。

クラスにいるときには積極的に授業に取り組んでくれるため、雰囲気盛り上がります。他の生徒の刺激にもなっています。発表、朗読などの活動のときには、先に発表するように促します。